



熊本地震に対する当院の活動 ①

～医療班の活動～

記 企画課財務管理係長 米原 貴大

平成 28 年 4 月 14 日に熊本県で最大震度 7 の地震が発生。2 日後の 16 日に再び震度 7 の地震が発生し甚大な被害が出ました。同日に国立病院機構本部より医療班派遣の出動要請があり、医師 1 名、看護師 2 名、薬剤師 1 名、事務員 1 名の医療班を編成し、4 月 18 日～21 日までの 4 日間、熊本県で医療支援活動を行ってきましたので報告させていただきます。



【医療班メンバー：右から荒田医師、村上薬剤師、吉村看護師、藤井看護師、米原事務官】

医療班の主な活動は、避難所での救護活動はもちろんのこと、ライフラインや生活環境の状況確認も行います。当医療班は、4 月 19 日から 20 日にかけて、震度 7 を 2 度観測した益城町の避難所「総合運動公園」で活動を行いました。総合運動公園では、施設内に約 1,000 名、駐車場での車中泊が約 1,000 名、計 2,000 名を超える住民の方が避難していました。

瓦礫で怪我をされた方も多く、救護所では縫合後の消毒やガーゼ交換などの診察を行いました。避難者の中には救護所に来られない寝たきりのご高齢の方もおられたため、体調のすぐれない方はいないか、看護師と薬剤師で、朝と晩に声をかけながら避難所内の巡回も行いました。

巡回では、薬についての質問もあり、薬剤師の説明に安心された様子がありました。また、かかりつけの病院が被災し、お薬が中断している方には救護所があることを説明し、翌日救護所に来られ診察後お薬を処方しました。避難者の方から「教えてもらって良かった、これで安心しました。ありがとう。」との言葉を頂きました。



【救護所での診察の様子】



【国立病院機構現地対策本部】



【避難所図書館】



【避難所内の巡回診療】



【被災状況】



【避難所調査】



【熊本城】

4 月 21 日には、熊本市北区の避難所を回り、聞き取り調査及び避難者の健康状態を確認しました。熊本市北区周辺では、震災から 1 週間程度が経過し、近隣の病院も再開してきていましたが、同じ地域でも水道が復旧している避難所と復旧の目途がたっていない避難所がありました。また余震も多く発生しており、倒壊の恐怖から車中泊を続けている避難者もいました。

災害はいつどこで起こるか分かりません。私たちの地域で災害が起こった際、迅速に対応できるのか、平時における災害時の計画、訓練、備蓄の大切さを、今回の活動を通して改めて実感しました。

最後に被害に遭われた方々へ心よりお見舞い申し上げますとともに、過酷な避難所生活を送られている中、一日も早く安心できる環境での生活を送ることができるよう心よりお祈り申し上げます。



【救護所
外観】



【避難者のテント
(ペット同行者用)】



【自衛隊テント(お風呂)】



【簡易トイレ】